

## 令和5年度 第9回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和5年11月1日（水） 13時15分から15時25分まで

開催場所：A203-204会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、秦野教育次長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、近藤議会事務局次長補佐、澤柳企画課長

## 会議内容

## 1 理事者あいさつ

## ＜市長＞

- ・令和6年度予算編成の基本方針を10月30日に発出したことについて、3点お願いをしておきたい。
- ・1点目として、予算編成の基本方針はこれから予算編成に入っていくにあたっての方向性や大きなテーマを示している。決してゴールではなく、スタートであり、これからが勝負である。予算編成が終わる最後の最後まで一緒にしっかり考えていくことをお願いしたい。予算編成の基本方針の中に、考えている事業が書かれたので良い、書かれていないので良くないということではない。来年度がこういう年だということを示しながら、それぞれの基本方針の中で、議論して予算編成をしようということ。
- ・2点目として、新しい情報や他の自治体の良い事例をしっかり参考にすること。新しい情報に対して、既に方向や予算要求の内容を決めているからといって、思考を停止しないように、積極的に取り込むこと。先日環境メッセでも、生ゴミを入れないゴミ袋を無料で配っている須坂市と上田市の例が紹介されていた。ゴミの減量についてはこれまでも議論してきたが、市民の皆さん側のメリットも示しながら行うことは新鮮な情報だった。当市でやるとすると議論もあるが、新しい情報や他で行っている事例を、引き続き積極的に取り入れる姿勢で、要求に臨んでもらいたい。
- ・3点目は、長年行っている継続事業を検討せずに前年同額とするのではなく、このままのやり方でいいのか、同額であったとしても、課題に応じてやり方を変えるなどを検討してもらいたい。継続事業をスルーしないように、しっかり検証し、来年度どうするのか議論してほしい。それがスクラップアンドビルドにもなり、組織としての人の余力を生み出す。新しいことをやるために人の余力を生み出すのは、デジタル化だけではなく、事業の見直しもやっていかないといけない。前年と同じことをやる要求が部長に上がってきた際には、それでいいのか話をしていただきたい。査定する側も前年と同じなので今年度も同額だとあっさり済ませないように、手間のかかることだが、進化していくためには必要なこと。

## ＜副市長＞

- ・先日、職員共済会のブロック対抗ソフトボール大会が行われた。今年は市立病院も含めて、全ブロックが参加でき、天気も良くて気持ち良かった。
- ・コロナ禍ということもあり、職員の働き方等に変化があり、職員が孤立している状況が感じられた。交流を深めたり、職員同士で情報共有や意見交換をする場が改めて必要だと感じた。部課長は各職場でそういう場を作り、職員の横の連携や明るい表情で仕事ができるような職場になるように、取り組んでいただきたい。

## ＜教育長＞

- ・年に何回か高校の校長先生方と懇談をしており、先月もキャリア教育等を通じての懇談を行った。進学校や普通科の学校は進学する生徒が多いが、専門学科がある高校も、現在求人倍率が非常に高いにも関わらず、今まで事務系に就職していた高校生が短期大学や専門学校へ進学している。地元で高校を卒業して、就職する生徒が非常に減っていると聞いた。一旦外へ出た方が戻って来てもらうことを改めて考える必要性を感じた。ニーズが非常に高まっていて、専門学科を卒業したら、地元へすぐ入ってくるというのは難しくなっている。短期大学、専門学校、大学に入りやすくなっているという世の中の状況もあるということを知った。ふるさとに愛着を持ってもらうにはどうしたらいいのか。戻ってきて就職してもらうには単純に給料を上げること、地元へ帰ってきたら奨学金を補助することが必要なのではないかと高校の校長先生方からご意見を聞き、なかなか厳しいところでもあると感じた。
- ・インフルエンザが小学校で流行している。本日は2小学校で5学級が学級閉鎖している。皆さんもお気を付

けいいただきたい。

## 2 報告事項

### (1) 令和5年飯田市議会第4回定例会の付議案件について

#### ◇趣旨

- ・令和5年飯田市議会第4回定例会の付議案件について報告する。

### (2) 令和5年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案について

#### ◇趣旨

- ・令和5年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案について報告する。

### (3) 令和6年度予算編成の基本方針について

#### ◇趣旨

- ・令和6年度予算編成の基本方針について報告する。

#### ◇議事録

(市長)

- ・今日は来年度の予算をどういう予算にしたいかという大きな方針について説明をしておきたい。
- ・基本的な考え方と分野別の重点には、いいだ未来デザイン2028の各基本方針の項目があるが、今日は基本的考え方のところだけ説明をしておく。
- ・基本的な考え方は、まず大きな見方として、来年はいいだ未来デザイン2028の計画期間12年間で考えると、中期4年間の最終年となる。最終年なので、中期4年間の中で成し遂げようと中期計画に載せたものが、どこまで達成できるのか。達成するつもりで、最終年度の予算を作らなくてはならない。これが大きな全体の中での位置付けの年となる。その中でも特に、「結婚出産子育ての希望に寄り添う」「ゼロカーボンシティの実現に向けて大きく踏み出す」この2点については、今年度担当参事を設けて全庁的な議論を続けてきた。これをちゃんと予算に反映させていくことが一つ大きなポイントになる。
- ・若者の回帰率が50%に満たないという当市の構造的な課題を、引き続きしっかりと取り組まなければいけないが、これまでやってきたことや新たにやらなければいけないことをよく考えてほしい。
- ・これまでの取組を整理し、取り巻く環境を的確に捉える中で、後期計画の在り方を検討する年度とあるが、来年度が中期計画4年間の最後の年なので、中期計画に掲げたことができているかをちゃんと見ながら最終年度の予算を作らなければいけない。その予算を執行しながら、後期計画を作っていくことになるが、後期計画も12年の計画期間の中で、最後の4年間という捉え方でいいのかということも考えなければいけないため、わざわざ「在り方を検討する」という言い方にしている。2028年がリニア開通後と設定しているが、リニアの開通年度はもう2027年ではなくなるという環境の中で、従来のプランの通り、後期4年間という立て方がいいのか、少し組み替えが必要なのかも含めて検討する年になる。これは令和6年度の予算編成に直接関わることではないかもしれないが、視点の切り替えが来年度の次期計画策定の中で必要になってくるため、少し含みを持たせた書き方になっているということを、部長には認識をしておいてほしい。
- ・「結婚や出産・子育ての希望に寄り添うまち」について、こども・子育て担当参事を中心に、今年度組織のことだけではなく、どんな取組をするべきか横断的に考えてきている。これまでは出産や特に子育て支援に重点を置いて施策を考えてきたが、結婚に対する若者の価値観の変化もあり、子育てだけでなく、出産、障がい児、ヤングケアラーなど広い範囲で市民の皆さんのニーズに応えるための検討をし、予算の中に盛り込んでいきたい。これは地域の構造的な課題に伝えていくのに、大事な視点となる。個別の事業についても、これまでの取組について、広い視点で見たときに、加えたり変えたりするところがないか考えてもらいたい。
- ・「家庭・子供に対する支援の充実」について、核家族や1人親世帯の増加など家族形態が変わってきている。こどもを中心に考えるこどもまんなか社会を国全体で目指しているが、家庭への支援が必要な部分、こどもへの支援が必要な部分など、いろいろな困難を抱えているお子さんや家庭に対しての支援をいろいろな視点でやっていかないといけない。

- ・「育ち合う機会や多様な学び方の創出」については、こどもの教育を考えることだけではなく、女性が出産や育児を契機に辞めてしまった仕事にもう一度復帰すること、自分の新しいチャレンジをしていきたい皆さんへ、リスキリングを含めた教育の機会を提供することなどの視点も盛り込みたい。
- ・「多様な暮らし方・働き方のサポート」については、生活様式が多様化をしていることを念頭に置き、それぞれのライフステージで希望する働き方に対応した支援策や多様なライフスタイルの実現の支援を検討し、飯田に住み続けたい、家庭を持ちたいときに、障壁になるものを解消していくこと。
- ・大きな課題にはなるが、ジェンダーギャップをどうやったら解消できるかという視点でいろいろな取組をしていかななくてはいけない。ヒアリング中では、研修会や講演会が挙げられたが、地域の認識をどうやったら変えていけるかについては、いろんな角度からの検討が必要である。研修会や講習会は、既に社会課題に対して、認識が十分な人たちが集まって共有しているだけになりかねない。そうではない形でやるとすれば、どんなやり方があるのか。非常に難しい課題だが、考えていかなければいけない。
- ・情報発信については、当市もいろいろな取組をこれまでもしてきたが、市民の皆さんに十分伝わっていない。結果として、子育て支援がまだまだ足りないという声に繋がっているところもある。せっかくある制度が使われていないのは本当にもったいない。多世代にわたって認識をしてもらうために、行き届くことを目指したい。
- ・保育人材の確保が今非常に大変なので、これに向けてどういう取組ができるかを検討すること。
- ・ゼロカーボンシティは、ゼロカーボンシティを宣言してからもう2年近く経過しているが、2050年までにゼロカーボンシティを実現するために、まだまだアクセルの踏み方が足りない。今年度、推進本部を本格始動し、これまで何回も会議を重ねてきた。各部局において予算編成に先行して取組を検討してきたので、それをいよいよ予算化していく。「減らす」取組、「変える」取組、「エネルギーをつくる」「つかう」取組、「二酸化炭素を「吸収」する」取組等は既にゼロカーボンシティ推進本部会議で議論してきたことであり、改めて視点として確認している。それぞれのテーマを新しく取り上げた施策ばかりではなく、これまでやってきた施策について、そういう視点を踏まえて、変更や追加をしてほしい。
- ・エネルギー高騰対策については、産業経済部を中心に、短期的な取組になるかもしれないが、具体的な施策を出したい。
- ・行動変容を促す取組については、ナッジの活用や学習機会の創出、支援体制の構築という視点で検討してもらいたい。既に認識を持っている人を集めて講演会をやるということではつまらない。認識を持っていない方に訴えかけたり、認識を持っていないでも行動が変わるような工夫をすることが必要である。
- ・「大学のあるまち」については、今年度までの取組として、「新しい学部が来るとしたらどういうまちをつくっておかないといけないか」ということをやってきたが、そういうフェーズではなくなっている。これから環境やGXの分野を中心に、この地域の強みを生かして、大学との連携を強化していく。その中で学校の設置に繋がっていくという取組方に変わった。大学生がいたらどうかとか、大学と連携して研究する企業をどうするかという直接的な取組というよりは、大学と連携をしながらこんなことをしていくとか、大学生だけではなく、若い人たちを意識したときにもっとこういうまちにしていこうとか、少し直接的な取組から幅の広い視点で取り組んでいくことが必要である。
- ・デジタル技術による課題解決については、デジタル技術を使って、人の手でやっていたことを技術に任せる。令和7年度までに国全体として地方公共団体のいろんな仕事のシステムを統一することが決まっている。来年度はちゃんと準備をしておかないと乗り遅れてしまう。庁内の仕事の仕方についても、デジタルで解決できる仕組みに変えていく。結果として市民の皆さんにとっては、書かない窓口や家でできる取組を進めていかないといけないため、具体的に実装していくことを考えていかなければならない。将来、デジタル技術を使ってどんなことをするかという意味では、リニア駅ができる地域として、少し先進的なものも意欲的に取り組んでいくことが必要である。ゼロカーボンの推進のためにも、デジタルがステップになることはたくさんあるので、それを形にすること。
- ・「健全財政の維持のために」については、必要なことについてどんどん投資をするばかりではなく、これまでやってきたことを見直しをする。前年と同じだから今年もこれでいいということにはならない。しっかりそれぞれの事業を見直し、スクラップアンドビルドする。新しい仕事をする前に今までの仕事をちゃんと見直す。事業そのものを止めるばかりではなく、中身を組み替えることも含めてスクラップである。同じ仕事もしっかり見直しながらやること。経常的な経費で追加していくものになれば、長く経費がかかっていくことになるが、財政見直しを作りながらやっているのは、これまでだと踏み込めなかったところにも踏み込んでいくことも考えている。消極的になれという意味ではないと敢えて申し上げる。財政的な査定はしっかりするが、必要なものについては、少し踏み込んでやるということも含めて考えている。「結婚や出産・子育ての希望に寄り添うまち」については、子育て世帯の負担軽減に繋がる新たな支援策を検討

する。経常経費を上乗せすると、それが継続となり大変だということで躊躇してきたものについても踏み込むところもある。それを行うには、どこかで何かを生み出さないといけない。そういった意味で、行革をして、全体を見直すことは大事な視点である。その部の中で、スクラップアンドビルドをして生み出せということばかりではなく、それをやるために、他の部も含めて全体から生み出すことも必要になってくるので、各部局で見直すこと。

- ・予算編成の基本方針はこれからの予算編成作業のスタートである。部長には、これを踏まえて引き続き予算編成が終わる最後の最後まで、予算の内容についてしっかり考えていただきたい。

#### ◇意見

(市長)

- ・市全体としての調整機能が上手く働くかは総務部でよく見てほしい。総務部は総合的な予算査定をしていただき、各部においても、要求上限額の中で入れているので良いということにはならないと認識しておいてほしい。前年度と一緒に良いという話にはならないので、よくよく考えること。

(こども・子育て担当参事)

- ・各部長へ予算編成に向かって3点お願いしたい。
- ・1点目は、少子化対策の検討でも出てきたが、子育て中の女性の短時間勤務のニーズはある。特に事務職について短時間勤務のニーズがあるが、求人があまりない。会計年度任用職員の予算を検討する中で、短時間勤務の採用を検討する余地があれば、視野に入れていただきたい。
- ・2点目は、イベント等の企画をする事業の予算を検討する場合は、託児の必要がないか留意していただきたい。子育て世代は核家族の共働きが多い。従って、自分のこどもを家族に預けて参加することは難しい。なお、託児の委託料を検証する場合は、こども家庭課子育て支援係に市内の集団託児の業者や料金等の情報がある。必要な場合は問い合わせいただきたい。
- ・3点目は、市有施設の改修等が必要な事業を検討する場合は、こども連れの方が利用する施設であれば、授乳室、トイレにおむつ交換台などの設置が必要ではないかという視点を持っていただきたい。

(市長)

- ・短時間勤務の採用は、各課で採用するだけではなく、仕事を寄せ集めて事務センターを作り、採用することを検討しなくていいのか。
- (こども・子育て担当参事)
- ・それも検討していただくが、予算要求の中で採用計画を立てるときに、短時間化が可能であればそういう視点をもっていただきたい。

#### (4) 飯田市Web口座振替受付サービスについて

##### ◇趣旨

- ・飯田市Web口座振替受付サービスについて報告する。

##### ◇意見

(ゼロカーボンシティ担当参事)

- ・ヤマトシステム開発(株)は認定個人情報保護団体に所属する事業者という理解で良いか。
- (納税課長)
- ・確認する。

#### (5) 飯田市ウェブサイト改善プロジェクトについて

##### ◇趣旨

- ・飯田市ウェブサイト改善プロジェクトについて報告する。

(企画部長)

- ・ホームページについては、非常に見にくい、検索記事が見当たらないという意見を多数いただいており、リニューアルしていく。具体的な解決策がないため、試行錯誤をしながらやっていくが、チャットボットでヒットしない理由等をフィードバックし、ひとつひとつ原因を潰していきたい。まずは研修会で気を付ける点や見直す点等を共有する。

##### ◇意見

(市長)

- ・何をどうしたらいいのか、できるだけ具体的に各課の担当に分かってもらわないといけない。  
(企画部長)
- ・専門家の意見等も入れ、市民からの意見を踏まえてやっていきたい。各課でそれぞれ点検して直していかないと全体がよくなるので、ご協力をお願いしたい。

#### (6) 保育料・副食費の還付漏れ事案実態調査に基づく再発防止策について

##### ◇趣旨

- ・保育料・副食費の還付漏れ事案実態調査に基づく再発防止策について報告する。

#### (7) 第4回定例会各委員会協議会報告事項について

##### ◇趣旨

- ・第4回定例会各委員会協議会報告事項について報告する。

### 3 その他、連絡事項

- ・第1回リニア駅アクセス検討会議及びリニア駅前広場活用検討会議 合同全体会（リニア推進部）

### 4 閉会